

# 平成 27 年度 大雪山国立公園表大雪地域

## 登山道関係者による秋季情報交換会

### 議事録

○日時：2015 年 12 月 21 日（月）13 時～16 時 30 分

○場所：上川総合振興局 3F 大会議室

○議事録：

#### 1. 各団体の平成 27 年度活動内容について

⇒指摘事項なし

#### 2. 各団体の平成 28 年度活動予定内容について

⇒指摘事項なし

#### 3. 各地区からの話題提供

##### 3.1 上川地区（白雲岳避難小屋基本計画）

○北海道大学大学院・山のトイレを考える会

- ・建替え後の白雲岳避難小屋の規模はどの程度を想定しているのか。

○上川自然保護官事務所

- ・検討中だが、現状に比べそれほど大きくはならない。現在の案では建築面積 70m<sup>2</sup>程度、延床面積としては 100m<sup>2</sup>程度が想定される。

○北海道大学大学院・山のトイレを考える会

- ・トイレについてはどのように考えているのか。

○上川自然保護官事務所

- ・複数案を検討したが難しい。避難小屋利用の協力金でヘリ搬出によるし尿処理の費用を捻出するのは困難と考えている。現状の処理方式を踏襲し、上屋だけ建替えにならざるを得ないと思う。

○パークボランティア連絡会

- ・建替え位置について、A 案ではテントを張るスペースが減るため好ましくない。

○上川自然保護官事務所

- ・ご意見のとおりで、個人的には A 案は難しいと考えている。

○北海道大学大学院・山のトイレを考える会

- ・A 案の場合、仮に A 案の付近にトイレを新たに作った場合、位置関係から水場へ影響する。現在のトイレも下で大腸菌群が検出されていたはずだ。

- ・現状の野営指定地（A 案）にすると、野営するための裸地が広がる可能性があり、周辺の生態系への影響においても建替え候補地として A 案は好ましくない。

○上川自然保護官事務所

- ・A 案の場合、トイレ（現状位置）と避難小屋（建替え後）が離れすぎてしまいトイレ（現状位置）まで行か

ずに、周辺ですませてしまう人がでる恐れがある。B案だと、建て替え時に避難小屋を使えない時期が生じてしまうので、登山者へのアナウンスが重要となる。また、工事中の希少種への配慮が必要となる。

#### ○山樂舎BEAR

・現状で小屋は一時的に非常に混み合うが完全予約制とか、大勢のグループには料金を割高にして、団体利用客を集中させず、分散する方法が必要である。

・現状の避難小屋はレイアウトが悪く、使い勝手が悪いので使いやすいレイアウトを希望する。

#### ○上川自然保護官事務所

・「レイアウトが悪い」とは具体的には

#### ○山樂舎BEAR

・私のような長身の方は、2Fの柱に頭をぶつけることがある。

・乾燥室とまでは言わないが雨カップを脱いだり、干したりできるスペースが欲しい。

#### ○上川自然保護官事務所

・カップを干すために、新たに熱源を確保することまでは想定はしていなかった。現在想定している熱源としては、緊急時に暖が取れる程度の簡易的なガスボンベ程度である。カップを脱ぐスペースとしては、考慮する。

#### ○風のたより工房

・B案では、積雪期でも避難小屋に入れるがA案だと、小屋が雪に埋まってしまう恐れがあり使えないのでは？、黒岳石室では、雪に埋まっている。B案が最も適切と考える。

・A案だと、テントを張るスペースが狭くなってしまう。

・C案では貴重種の生息場所を改変するため、3案の中ではB案が最も適切と考える。

(一同賛同)

・欧米の山小屋のように、下界で組み立てて空輸し、現地に設置する方法もある。

#### ○ガイドの山小屋

・外国では山小屋の考え方が進んでおり、その考え方をそのまま踏襲すべきでは。

・避難小屋泊の登山客のオーバー対策として、予約制にしてみてもどうか。

・現状の避難小屋協力金の1000円は安い。2000円、2500円でも良いのでは。

・2段ベッドを導入し、番号を付け、予約制にするのが良いのでは。

・今のご時勢では、昔の山小屋のような雰囲気にはならないのでは。今後は欧米のような感じになると考えている。

・人数、スペースを有効に使い合理的な欧米的に、40～50年使えるものを。

#### ○研究者ネットワーク

・予約制は賛成であるが、登山者からの支持が得られるかが心配である。小屋を3F建てにすることも考えられる。

#### ○上川自然保護官事務所

・避難小屋でどこまでできるかということでそのことも考える。植生を考え、バランスのとれたものを考えていく。

### 3.2 十勝連峰地区（美瑛富士避難小屋携帯トイレ）

#### ○北海道大学大学院・山のトイレを考える会（補足説明）

・携帯トイレブースは、小屋の裏側に隣接する位置に設置した。重しの石と擦れてテントの裾が破れてしまった。次年度以降、設置位置は検討する必要がある。

・携帯トイレ回収BOXへのゴミの投入防止で鍵を設置したが、今後はさらに番号の周知が必要である。

・道内利用者については、携帯トイレの自宅への持ち帰りが基本と考え、そのための周知が必要である。

### 3.3 ドローン

○北海道大学大学院・山のトイレを考える会

・登山者へのアンケート結果では、トレランや自転車(登山道を自転車で走る)を好ましくないとする人の割合よりも、ドローンを好ましくないとする人の割合が高い、半数以上である。非常に好ましくない44%、好ましくない19%、どちらでもない34%という結果だった。

○研究者ネットワーク

・現状で地域ルール等、環境省で何か規制を進めているのか。

○上川自然保護官事務所

・全国的には無い。省内での議論としては、航空法で利用が集中するところでの使用は禁止されているので、それにあたる集団施設地区上空では飛行不可とすることは可能ではないか、と挙がっている。

○研究者ネットワーク

・北海道独自の地域ルールは何か考えているか。

○上川自然保護官事務所

・上川地区では地域ルールやガイドラインの検討を進めていたが、首相官邸にドローンが不時着した事件があり、全国的な動向を見極めるため導入を見送った。

○研究者ネットワーク

・登山道の荒廃の調査研究にドローンを使っているの、早めに法的な枠組み等を整備して欲しい。

## 4. 各山域における課題共有のためのグループディスカッション

### A: 黒岳・旭岳・トムラウシ山周辺地域

(現状課題について)

○上川自然保護官事務所

・この1年で荒れた所などあるか？

○北海道山岳整備

・中岳から間宮だけの急斜面の登り切って平らになるところが荒れたと思う。  
・中岳分岐は今年手を入れた。

○上川自然保護官事務所

・上川管内で話したところ、この1年でと言うわけではないが、白雲山頂直下が荒れていると話題に上がった。

○北海道山岳整備

・10年前の調査カルテと比較できる。

○上川自然保護官事務所

・10年前の登山道カルテならば照合できるので比較できる。

○大雪山自然学校

・ガリーがひどいところといえば、クチャンベツから沼ノ原までの登山道だが、放置されている。見捨てられているのか、という状況である。

○大雪山倶楽部

・クチャンベツから沼ノ原までの登山道で今年落石があった。  
・五色の水場あたりもガリーがひどい。

○上川自然保護官事務所

・確かに五色の水場の先がずるずるになっている。

○山樂舎 BEAR

・特に土の階段になっている所は、雨の日はつるつるで危ない。

○上川中部森林管理署

・ルートを変更できたら、どうか？

○山樂舎 BEAR

・中岳温泉と中岳の分岐点あたりに水を止めるための石積みが施工されたが、その下がえぐれている。石だけではダメかもしれない。

○北海道山岳整備

・一昨年施工した業者が昨年補修したが、導流工がないので、根本的な対策をとらないといけない。

○上川山岳会

・黒岳分岐から赤石川のあたりも浸食がひどい。

○上川中部森林管理署

・石室側に何段か石組をした。赤石川までの複線化している所には椰子殻マットをつめた。今後は良くなると思う。

○りんゆう観光

・ヒサゴ沼に降りていく道は木階段の木の板が緩んでいる状態。

・水の流れが激しく、木の板が浮いていたり、木道もゆがんでいる。雪解け後は酷い。

○大雪山倶楽部

・一般ツアー観光客を見ていると、姿見池の展望台からロープウェイの石段は足場が悪い。

融雪期は特に手すりをつかまっておる人も多いが、掴む木が逆剥けていたり、金具がぐらついていたりする。雪が多く残るところなので取り外しできるものにしてはどうか。

・第一展望台の最後の登りもロープに頼る人が多いので、頼れるようなものにしてはどうか？

○大雪山自然学校

・手摺が壊れた状態。支柱の金属が尖っていて危ない。基礎から立ち上っている金属板も曲がってしまっているものもある。あの階段は手摺が必要だと思うが、今の状態は危険なので撤去するならばの方が良い。毎年やり方が違う手すりなので、撤去できる手すりにするか、階段をしっかりとるかだと思う。

○大雪山倶楽部

・その場所では、残雪期には滑りやすいのでストックを貸している。

○発言者不明

・大雪山自然学校でストックを貸し出しては？

○大雪山自然学校

・ロープウェイの売店で販売しているので、レンタルできない。

○上川自然保護官事務所

・手すりを修繕するとしたら？何が必要か？

○大雪山自然学校

・太めの丸太の柵で取り外しできるもの。すでに設置されている物は地面から埋まっているのが金属なので、取替え作業は大変なので、それに板をつけるとか。

(利用上の課題について)

○風のたより工房

・愛山溪の雲井が原湿原は今通行止めになっている。あれを何とかしてはどうか。看板には利用するなら自己責任で、と書かれている。

○上川町

・当初は愛山溪倶楽部に一声かけて入ってもらい、その時に自己責任で入山してもらおうようにはしていたが、上川南部森林室の方から通行止めにするとなった。

○上川自然保護官事務所

・すぐに行けるところの木道だけに、朽ちた後の管理が難しい。

○上川山岳会

・松仙園もいいところなので。

○上川自然保護官事務所

・上川町や南部森林室の方は、こういった意見があるという事を持ち帰って、検討してもらえればと思う。

(ドローンについて)

○大雪山自然学校

・今年は2件、利用者があった。時期は夏で利用目的は風景の撮影のようであった。うち1件は利用制限の理由について説明が求められた。禁止されていないことを知っていた。2件とも外国人だった。1件は欧米系でもう1件はアジア系だった。

○上川中部森林管理署

・ドローンが禁止区域等に飛んで行ってしまった時、誰が回収するのか、といったことが話題になっている。バッテリーが有害という話もある。

○研究者ネットワーク

・ドローンはよく落ちる。登山道以外に落ちた、危険な場所に落ちた、といった時にどうするか、また登山道はずれて取りに行った際にケガをしたらどうするか、環境省で早く対応方法を決めなければならない。ドローンによってこれまでわからなかったことがわかるようになった。一方で特別な目的も持たないで使用している人もいるので、早目に手を打って欲しい。環境省でドローンを持っていてもいいのでは。

○上川自然保護官事務所

・航空法は、植生や動物は守る法律ではない。物件に動物は入っていない。

航空法が入った事で、前に作った決まりを見直さないといけない。ルールを地域で決めれば、お客さんも、管理側も良い。上川のルールは、基本的には自粛。許可を取って腕章つけた人は、土地所有者にも許可を得て行って下さいというかたち。

(管理ロープについて)

○上川自然保護官事務所

・上川管内で話合ったときに、白雲避難小屋周辺で今年度使用した、緑色の細いロープを使用したので、来年からこちらを黒岳、赤岳周辺で試験施工しようと考えている。

・外国人対応として、ロープに多言語で表示する案もでている。

・この緑色のロープは200mで1500円くらい。

・東川も良かったら、表大雪で統一したらどうか。

○北海道山岳整備

・耐久性に問題がありそうだ。

○大雪山自然学校

・細くてすぐに切れそう。

○風のたより工房

・使用する予定の場所はどこか？また雪への耐久性はどうか？

○山樂舎 BEAR

- ・誘導用との使い分けが必要。

○上川自然保護官事務所、上川中部森林管理署

- ・1年もてば良いと考えている。注意の場所はトラロープにして、試験的に使ってみようと思う。細かいゴミにならないか注意する。

(刈り払いについて)

○上川自然保護官事務所

- ・刈り払いについては幅1.5mくらいが作業しやすい
- ・3～5年に1度の所は機械刈りにして、それ以外の場所は手刈りでいいのでは。

○北海道山岳整備

- ・現在はその場その場で対応してやっているが、それによって特に問題が生じているということはない。

(木道について)

○東川自然保護官事務所

- ・天女ヶ原の木道が危ない状態ではないか。特にはじめの区間あたりは酷い。

○上川総合振興局

- ・壊れた木道の補修方法が課題。実際の対応をどうすれば良いか苦慮している

○上川自然保護官事務所

- ・スポンサーを探してみても？労力としても金銭的にも協力したいと思っているところはあるはず。

○山樂舎 BEAR

- ・モンベル等にスポンサーを募ってはどうか。

○東川エコツーリズム

- ・新しい木道をつくるのは結構難しく、今ある勇駒別湿原の木道のように、湿原ぎりぎりの高さで設置すると、濡れて滑りやすい。

○上川総合振興局

- ・道の予算がないので、対応できたとしてがっちりした物はできない。せいぜい3年もつ程度のものしかできないだろう。閉鎖は登山者の事を考えると無理である。これから毎年、少しでもいいから手をかけていけるようなくみにしなければならない課題である。

○山樂舎 BEAR

- ・ルート変更は考えられないか。ベアモンテの裏のあたり。

○東川エコツーリズム

- ・あのあたりは圧雪車が何回も通るので、スキーコースにかからないようにする必要がある。そうしないとせっかく作ってもすぐに傷む。ルートを変えても結局湿原だから難しい。

○上川自然保護官事務所

- ・木道設置は作業行為でできる。

○上川総合振興局

- ・ルート変更するならば、植生調査、土留め、環境整備という話になるので、資材費労働力がかかる。まずは候補地の現地調査等の実施について相談したい。

○上川自然保護官事務所

- ・新しい道を作るには、伐開が大変。

○りんゆう観光

- ・刈り払った後の道をどう維持するか、登山道レベルをどうするか？歩く対象者は？遊歩道か登山道かなど考える必要がある。

- ・天女ヶ原を通る姿見園地からのエスケープルートとしても必要がある。

#### ○上川自然保護官事務所

- ・今年度黒岳の資材を一般登山者が荷揚げしてくれた。コーディネートしてあげたら進んだので、さらに工夫して協力の和を広げていけたらと思う。

(その他の連絡事項等)

#### ○上川総合振興局

- ・忠別避難小屋の自称管理人の件、来年も今年同様の事態が生じる可能性がある。合同パトロールの実施について協力をお願いしたい。

### B：十勝岳連峰地域

#### ○ガイドの山小屋

- ・十勝岳連峰地域に関しては、積雪期でも登山者が多く、オフシーズンにならない。
- ・積雪期は、目印用のピンクテープを木々に付ける登山者が多いが、回収されていない。見つけ次第回収しているが、かなりの量になる。
- ・積雪期は事故が多く、自己責任とは言え、何らかのルール作りや啓蒙活動が必要と考える。
- ・また、積雪期は欧米からの登山者が多い。

#### ○東川自然保護官事務所

- ・旭岳ロープウェイの利用者の90%以上が外国人の時もある。利用者層の変化等新たな課題が出てきていると認識している。冬山は基本的には自己責任と考えるが、確かに何らかのルールがあっても良いのかもしれない。

#### ○上富良野十勝岳山岳会

- ・上富良野では冬山のルール作りをしており、入山届けは必須にするなどの対策を講じている。

#### ○上富良野町

- ・冬期の間だけ、日本語と英語表記の看板を設置している。
- ・観光客が宿泊する宿に関しては、案内を出している。
- ・観光全般の取り組みではあるが、今後、外国人対応の講習会を観光業者向けに実施する予定である。

#### ○ガイドの山小屋

- ・十勝岳連峰地域の中で、上富良野町だけ突出して取り組んでいる感がある。他の自治体はそこまでではない。環境省などどこかが音頭を取って進めて欲しい。

#### ○美瑛山岳会

- ・美瑛では、十勝岳の火口への滑走は禁止しているが、実際には滑走しているスキーヤーもいる。
- ・ネット等を見ると、リスクの高い斜面(雪崩の危険性が高い)で滑っている人が多い。
- ・旭岳では、ロープウェイの最終便を過ぎても下山しない人がいると聞いている。
- ・秋には、稜線付近ではアイゼン必須だが、アイゼンなしで登っている人もいる。
- ・山岳遭難事故は、昔(10年以上前)は中高年が大部分を占めていたが、現状は40代以下が半数を占めている。
- ・表大雪の登山道よりは十勝岳連峰地域のほうが登山道の損傷は小さいと思う。十勝岳連峰地域は地元山岳会がこまめに整備しているからだと考えている。

#### ○東川自然保護官事務所

- ・十勝岳連峰地域に関しては、地元の山岳会を始めとした方々が登山道整備に尽力してくださっていて、大変ありがたく思っている。

- ・平成28年度の登山道整備も協働型で実施する場所があればと考えているが、要望等はあるか。

○パークボランティア連絡会、上富良野十勝岳山岳会

- ・上ホロの避難小屋を建替えて欲しい。少なくとも屋根を直して欲しい

○上川総合振興局

- ・北海道では、建替えの予算化が難しい。ただ、皆さんの意見を聞いて、事業の優先度を明確にした上で、できる限りの維持補修を実施していきたい。

○パークボランティア連絡会

- ・上ホロの避難小屋は、観測機器が設置されており、観測体制の維持のために建替えが必要ということで予算化できるのでは。

○ガイドの山小屋

- ・上ホロの避難小屋は、十勝岳の噴火時のシェルターとしての役割も担っていると考ええる。

○上川総合振興局

十勝岳への噴火対応としては、ハードだけでなく、入山規制等のソフト対応も必要と考える。

○東川自然保護官事務所

- ・ソフト対策とハード対策の両方が必要と考えられるが、まずはソフト対策の充実が必要。
- ・登山道整備に関し、美瑛岳の北向沢、上ホロの稜線上で崩壊が著しく、登山道の付け替えを検討した方が良い箇所がある。

○上富良野十勝岳山岳会

- ・美瑛岳の北向き沢はいざというときにハシゴの撤去が出来るよう、準備を進めておきたいと考えている。

- ・先ほど表大雪で話題のあったロープはどうするのか。十勝岳連峰では、トラロープを使ったり、白色のロープを使ったりしている。

○東川自然保護官事務所

- ・表大雪で導入を予定している緑色のロープは、100均で購入でき、安価であると聞いている。表大雪での設置の様子を見て、本地域での設置を検討したい。
- ・十勝岳連峰地域に関し、ペンキでのマーキングの色は新得側では赤色、美瑛側では黄色である。統一を計る必要があるかどうか。

○上富良野十勝岳山岳会

- ・事故防止として、ペンキでのマーキングは必要である。

○発言者複数

- ・霧が出ているときは黄色が見えやすいと思うが、赤色の方が良いという話も聞く。

○美瑛山岳会

- ・霧が出ているときは短い間隔でマーキングがあると助かるが、晴れているときは過剰に感じることもある。マーキングの間隔や、マーキングの要否を判断するための何らかの基準が欲しい。

○北海道大学大学院・山のトイレを考える会

- ・ロープ柵の設置の要否も含め、登山道技術指針等で、ある程度整理できないのか。

○東川自然保護官事務所

- ・大雪グレード5に関しては、あまり登山道に手をかけるべきではない場所となっているが、最低限のマーキングや刈り払い等が必要な場所もあると考えている。登山道技術指針では、ある程度の幅をもった基準を示せればと思う。

○北海道大学大学院・山のトイレを考える会

- ・登山者の遭難防止や希少種保護の点から、大雪グレード5についても、最低限は手をかける必要がある。

#### ○上富良野十勝岳山岳会

・登山道整備に関し、十勝岳連峰地域では噴煙の影響なのか、ロープの鉄筋棒の劣化が早い。また、一度設置したロープ柵等を撤去して無くすことは、登山者の遭難防止の観点から好ましくない。

#### ○東川自然保護官事務所

・表大雪では、地元と自治体等で情報共有する場があるが、十勝岳連峰地域にはない。今後は必要であるか。

#### ○上富良野十勝岳山岳会、美瑛山岳会

・十勝岳連峰地域では山岳会同士の繋がりが強く、その中で情報共有を行ってきており、うまくいっている。また、十勝岳連峰地域では行政機関が複数あり、登山道整備もその面で苦勞する部分はある。

#### ○ガイドの山小屋

・1997年からガイドを行っているが、民間の視点からは、行政機関同士の連携は不十分に見える。今回のような場があれば、少しずつ連携が強くなるのでは。

・広く共通のルール作りを進めていけばよい。

#### ○上富良野町

・情報提供であるが、平成21年から封鎖されている三段山ルートを開ける準備を進めている。また、上富良野地域の情報共有の方法について模索している。

### 5. その他（グループディスカッション総括）

#### A：黒岳・旭岳・トムラウシ山周辺地域

##### ○上川自然保護官事務所

黒岳・旭岳・トムラウシ山周辺地域のグループディスカッションの総括は以下の通りである。

- ・登山道の現状課題としてひどいところは御鉢回りや中岳分岐等である。
- ・姿見の池園地は現在の柵の代わりになるものが必要である。
- ・ドローンに対する対応としては、今の段階で地域ルールが必要である。航空法では周辺にいる人の安全等が考えられているが、自然公園では自然保護の観点からのルールが必要である。上川では昨年度から協議会で検討してきたものをブラッシュアップしていくことが考えられる。
- ・維持管理の点ではロープ柵として細いロープを使った試行について色々意見をいただいたので反映したい。
- ・刈り払いについては機械刈の場合は少し広めに刈らせてもらい、課題があれば見直していく。
- ・天女ヶ原の木道は、コストや整備したとしても滑りやすくなるといった点をふまえ、ルートの付替えも含めて来年度から調整していく。

#### B：十勝岳連峰地域

##### ○東川自然保護官事務所

十勝岳連峰地域のグループディスカッションの総括は以下の通りである。

- ・十勝岳連峰地域は夏だけでなく、冬もオンシーズンである。
- ・冬山は事故が多い。また、目印のためのピンクテープの残置の量が多い。
- ・冬山入山のルールの周知および徹底が必要である。また、外国人対応も必要である。
- ・上ホロの避難小屋に関し、建替えて欲しい。十勝岳噴火時のシェルターとしての役割にも担っている。
- ・平成28年度の登山道補修の情報共有を行った。
- ・登山道補修に関しては、ある程度幅をもった補修方法で、統一化したルールが必要である。ペンキでのマーキングの色の統一化は見送り。
- ・十勝岳連峰地域での登山道管理は地元山岳会に担うところが大きい。行政機関同士の連携が必要であ

る。山岳会同士の連携はあり、当面は現状の体制で進める。

・上富良野町からの話題提供で、三段山ルートを開ける準備中であること、登山道情報共有の方法の検討、について話があった。

以上